

会 議 録

1 会議名

令和7年度第2回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について（公開）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和7年7月29日（火）午後6時30分から午後7時25分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 坪田会長、横田副会長、安達（麻）委員、安達（光）委員、笠原委員、佐藤（幸）委員、白滝委員、中原委員、番場委員（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【内藤所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：番場委員に依頼

議題【報告事項】農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について、事務

局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料「農業経営基盤強化の促進に関する計画『地域計画』について」に基づき説明

【坪田会長】

今ほどの、事務局の説明に対し質問等はあるか。質問をお聞きし、後日農政課から詳しく回答をもらうということで聞いているので、ご承知の上質問していただきたい。

【白滝委員】

上越市農林水産部というのは、農林省の管轄か、市の管轄か。

【内藤所長】

上越市農林水産部は上越市役所の部署である。

【白滝委員】

今、米の問題や、農業に関する今後について、いろいろ問題が出てきているので、それにも関連してくるのかと気になった。この計画は米に限らず、農地の地域的な計画をどうやって進めていくかという内容なのか。

【丸山主任】

資料「地域計画 4 地域内の農業を担う者一覧」の「経営作目等」に、水稻、枝豆、蕎麦など、この地域で農業に従事されている方が何を作られているのか、その面積はどれくらいかということが整理されている。米だけではなくて他の作物を含め、農地というものをどうしていくかという計画になっている。

【横田副会長】

私は、農地の最適化推進委員ということで、この計画作りに関わった。谷浜・桑取地区で農業をされている方々にアンケートを渡して、今現在どのくらい作っているか、10年後にどう続けているのか、規模を拡大していきたいか、縮小したいか回答してもらった。それを地図に色塗りし、現状をまず把握した上で、計画としては集約化していきたいというものである。いずれ担い手がなくなり放棄したときに、例えば桑取では今、法人化しているところが引き受けてくれているが、そういうことを含めて、だんだん集約化していく、最適化していくということを目的としているところである。

上越市全体では、大きな区画にまとめるほ場整備がすすめられている。桑取、谷浜は典型的な中山間地で、本当に田んぼが小さくて、大きな区画にまとめるほ場整備はできない。今更、段差のあるような田んぼを1つにするということとはできない。だから、条

件のいい田んぼは誰かがやってくれないか、そういうことを見越したような形で集約し、認定農業者の方に耕作してもらえないか、まとめた計画である。例えば、10年後に半分以上の方がやめているのではないかと思う。だから今後も見直しをかけていくということである。

【佐藤（幸）委員】

質問したい。谷浜、桑取地区で農業法人、あるいは地区外から谷浜、桑取に来て、農業に従事している法人や個人はどれくらいいらっしゃるのか。農業のことはさっぱりわからないので、分かれば教えていただきたい。

【丸山主任】

今日は資料がない。今説明した中にも外部から来ている耕作者の話も出ているので、具体的な数などについては確認し、次回の協議会で説明したい。

【坪田会長】

ほかに意見を求めるがなし。

議題【自主的な審議】自主的審議について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1「令和7年度第2回谷浜・桑取区区地域協議会 自主的審議について」に基づき説明

「オ.くわどり湯ったり村について」は、6月17日にくわどり湯ったり村（以下、湯ったり村）経営者（株式会社ゆめ企画名立、（以下、ゆめ企画名立））との意見交換に参加した、坪田会長、横田副会長、佐藤（幸）委員から補足をお願いする。

【佐藤（幸）委員】

要望、不満も含めて、思っていることを全て話してきた。ゆめ企画名立に対してこの桑取の地の歴史・文化を知ってもらいたい、この地域を単なる商売ということではなく、愛する気持ちが湧き出てくるのではないかと期待していると伝えてきた。そうなってくると、地域住民は高齢化しているが、応援しようという感じになってくると思う。私にはその辺の熱いものが伝わってこなかった。そこがもどかしくて、そんなことも伝えさせてもらった。

客として利用した人から、湯ったり村の感想が聞こえてくる。不満を感じている人は、次回の利用に二の足を踏んだり、別のところへ行ってしまうたりするのではないかと、私は心配している。ゆめ企画名立は民間の会社だから、どこまで地域から要望を出して

いいのかというあたりも、もどかしいところがある。ゆめ企画名立は住民の声を聞く、アンケートをあちらこちらに置いて率直な意見を聞かせてほしいという姿勢を見せて、営業に生かしていただきたいと思う。

【横田副会長】

湯ったり村ができる前から、桑取地区をどうやって盛り上げるかを考える「明日の桑取を考える会」という組織があって、当時はゴルフ場を誘致したりしたが、結局温泉施設を作った。作った当時は本当に賑わって、地元でも協力して盛り上げたという記憶が残っている。

今回、初めて正式に新たな経営者であるゆめ企画名立と打ち合わせをしたが、佐藤(幸)委員もおっしゃったように、これまで、お互い言いたいことはたくさんあるが、話し合う場がなかったので、余計にいろいろな疑心暗鬼になった部分があったと思う。ゆめ企画名立も定期的に地域と話しをする場を設けたいということだった。今言ったような要望事項なのか、よりこうしたらいいということなのか、あるいは現状の報告なのか、それを地域協議会として動くのか、町内会で動くのか、あるいは町内会長以下、皆さんの意見をどうやって集約して話をするかなど、やり方の違いはいろいろこれから検討しなければいけない。定期的に情報交換をして、こういうやり方も昔はあってよかった、今はこういうことはよくないのではないかと、忌憚のない意見交換や情報交換の場を設ければ、もう少し風通しがいい関係で、よりよい方向へ持っていくことができるのではないかと思う。

【坪田会長】

お互いの意見を出し、共通認識を持つことができたと思う。お互い考えていること、湯ったり村を盛り上げたいという気持ちは一緒であるが、営利が目的のゆめ企画に対して、私たちは今までの第三セクターであった時の思いをそのままぶつけているような気がする。だから我々地域は、どうしてもすれ違いを感じてしまうのではないかと思っている。

民間事業者としてこの地で生きていくということについては、経営者の手腕で相当違うのではないか。地元への接し方は、おかしな話だが、お祭りの際には寄附をする等、意外とそういうところが地域が民間企業の姿勢を感じやすい部分である。1つの例かもしれないが、意外とそれが人間の中の感情的な部分への影響が大きいのではないかと思う。

今回の訪問がきっかけで、ゆめ企画名立からも、サイクリングツアーの企画を練るので谷浜・桑取区内のお勧めスポットを教えてほしいというような問い合わせももらっている。地域としてゆめ企画名立の取組に協力したいと思うし、ゆめ企画名立が企画を考え、地域に根差そうという気持ちが現れていると感じている。

【白滝委員】

私はゆめ企画名立の発言で「4月から現状把握に取り組んでおり、手探りの状態」というところが気になっている。企業として、きちんと年間計画や中長期の計画、プロモーションの計画を立てられていないのではないかな。だから、副会長がおっしゃったように、今後協議会とどのような形で意見交換されるのか分からないが、そういう場で地域から話題を出して、様々な計画を確認していく必要があると思う。

【横田副会長】

意見交換をしたが、ゆめ企画名立は何を考えているのかが分からないという印象が残った。今の状態では、疑心暗鬼にならざるを得ないと思う。

【坪田会長】

これから何回も意見交換をして話し合う必要を感じる。

【横田副会長】

来月、湯ったり村で「夢に出てくる盆踊り」が実施される。

【白滝委員】

あれはいいイベントである。

【横田副会長】

私が実行委員をやっていたときは、東屋のところで湯ったり村が飲食物を販売していた。イベントが終わった後は地域住民と一緒に反省会をするなど、湯ったり村と地域が一体となってイベントをやったという思い出がある。

【中原委員】

谷浜和泉会の集まりや同級会を湯ったり村でやろうと計画を立てているが、湯ったり村の従業員から真心が伝わってこない。お客さんの気持ちになって、喜ばせて、楽しんでもらおうという雰囲気が出てこない、もう利用したくない。それが今は心配なので、これからどんどん利用して、そういう話をしてみたいと思っている。

【坪田会長】

利用者は以前と比較して不満を感じているし、新しい経営者は以前を知らないので、

理解できていないこともあるのではないか。一方的に言うのではなく、ある程度合体することを目指して、お互い定期的に意見交換をする場は必要不可欠かもしれない。そして、私たち地域協議会だけではなくて、地元の有志や町内会長など輪を広げる中で、共通の認識を持つようにしたい。そうしないと、いつまで経っても、溝が塞がらないような感じがする。

【佐藤(幸)委員】

私は、中原委員の思いがすごくよく分かる。湯ったり村ができた当初は、地元の方は自分のふるさとに行くような思いで通っていたと思う。今は、行っても気持ちが通じ合っていないような、よそよそしいような、これは何が原因なのか整理したい。

【坪田会長】

話の腰を折ってしまい申し訳ないが、時間なので、次の「ウ.学校をとりまく環境について」に進む。事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

6月20日に「学びの郷 谷浜・桑取の教育を考える会」が開かれ、地域協議会委員の皆さんも何人か出席されていたと思う。時間がないところだが、一言だけ皆さんから感想をいただきたい。

【坪田会長】

上越市創造行政研究所の藤山所長が、分かりやすく、具体的にこの地域について分析されたことや、今後の取り組むべきことを講演いただいた。谷浜・桑取区の「お達者度」は市内でもレベルが高く、医療費も使わないで元気でやっていると話があった。この地区はわきあいあいの中で高齢者が元気で上手くいっている地域だと認識できた。

【白滝委員】

この講演を聞いて、この地域協議会の中でもやってもらいたいくらいの話だった。藤山先生の講演を基に、地域活性化を進める具体策を作っていけばいいのではないかと考えた。

【佐藤(幸)委員】

私は、すごく良い講演だと思った。このような集会在待たれていたのではないか。大変な地域ではあるが、希望を持てるのではないかという感想を持った。だから、是非これを発展させていきたいと思った。

【坪田会長】

この件については、次回以降も時間をかけて話を続けたい。その他、事務局から連絡はあるか。

【丸山主任】

地域独自の予算の令和8年度の事業提案期限が、城ヶ峰砦の整備や、桑谷里神楽の事業といった地域活動支援事業からの継続事業が9月末まで、新規の事業は8月末までとなっている。この予算の活用を考えている団体があれば、まちづくりセンターにつないでほしい。

- ・次回協議会：会長と協議の上日程を決定

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。